

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	2019 年に外務省の N 連によって完成したトレーニングセンターを基盤として、住民の生計向上に向けた各種トレーニングが実施され、地域の協力体制が強化されつつある。その一方で、事業地にはまだ震災によって灌漑等のインフラが破損されたままの村があり、食料不足と低収入から脱却できずにいる。本事業ではこれらの地域において、新たに灌漑貯水槽の建設などによる生活インフラの復興整備と酪農乳製品などの付加価値のある製品作りをすることによって貧困の削減を図る。同時に縫製やナプキンの製造研修によって生活の質の改善と女性の収入向上を図り、持続的かつ自立的な復興の促進を実現させる。 The training center completed in 2019 with the grant aid of the Ministry of Foreign Affairs of Japan has become a central place for regional development and has been strengthened to improve living conditions. On the other hand, there are villages where the infrastructure such as irrigation remains damaged. In that area, people are facing a decrease in crop yields. This project will reduce poverty in these areas by improving living infrastructure by constructing irrigation water storage tanks and creating value-added products such as dairy products (cheese and ice cream). At the same time, we will improve the environment and income of women by sewing training and napkin manufacturing training. Through these activities, we will promote sustainable and independent recovery.
(2) 事業の必要性（背景）	ネパール連邦民主共和国（以下ネパール）の人口は約 2,930 万人（World Bank 2017）で、その 81%が農村に住んでいる。国連人間開発指標では 189 カ国中 149 位の後発開発途上国であり、1 人当たりの GDI が約 849 ドル/年（91,317 円、2017 年）でアジア最貧国である。特に山岳労働者の貧困が問題となっている。加えて 2015 年 4 月 25 日に起きたマグニチュード 7.8 の地震で、本事業地であるシンドウパルチョーク郡も、人口約 28 万人の内、約 95%の家屋が全壊し、死者 3,550 人、負傷者 2,101 人の被害を受けた。現地は標高が 1,600～2,000m の山岳部にあるため復興も遅れている。このような現状の中で 2017 年度日本 NGO 連携無償資金協力事業「シンドウパルチョーク郡サンガチョック村におけるトレーニングセンター建設と被災者の生計向上支援事業」では以下の成果が得られた。 * 地域復興の象徴としてレーニングセンターが完成し、コミュニティのイベントや研修に利用されており、6 ヶ月で 1,200 人の利用者があった。 * 農業技術研修では、終了後参加者の 60%が有機農業に取り組み、コンポスト作りや、しいたけ栽培など新しい技術を習得した。参加前の農業による平均世帯年収は 120,000NPR (112,680 円)であったが、研修後には 240,000NPR (225,360 円)程度まで向上した。 * 縫製研修は計 53 人が参加し、手動ミシンの使い方、スカーフ、ショッピングバッグ、学校カバンの作り方を学んだ。研修後参加者の平均世帯年収は 120,000NPR (112,680 円)に増加した。

- * 復興のための地域開発研修（30 名）では参加したリーダー全員が地域の問題と解決の必要性を理解し、眠っている資源の効果的な利用方法を模索した。モビリゼーションセミナーでは（166 名）が住民ニーズを反映した研修計画を作成し、実施した結果、皆が納得する成果と評価が得られた。

これらの成果を得ることができた一方、事業地にはまだ以下の課題が残されている。

1. 破壊された生活インフラ

2013 年に地区農業開発局がスロシルバリ村のために建設した貯水槽が 2015 年の大地震で破損され、今も放置されたままになっている。近くに水源（2 本の小川）があるにも関わらず、灌漑用の貯水槽がないために雨季の稲作のみに依存せざるを得ない状況にあり、食料不足と低収入から脱却できずにいる。この灌漑設備の復旧に加えて、もう 1 つの小川を利用した新しい灌漑設備を設置する必要がある。これは古い灌漑設備の小川の水が乾季にはかなり少なくなってしまうためである。古い灌漑設備の復旧と新しい灌漑設備ができれば、耕作可能な 650 ロパニ（Ropani、約 33ha）の土地で、乾季でも換金作物である野菜や家畜の餌を生産できるようになり、農家の収入が向上する。

2 伝統的酪農による低収入

事業地の酪農家は震災によって 500 頭全ての家畜を失った。現在ようやく 233 頭まで増やしたものの、ミルクの生産だけに頼っているのは貧困からの脱却は難しい状況にある。乳製品にはカルシウムやビタミン D、ビタミン B12 などの重要な栄養素が含まれているため、ほとんどの酪農家は各家で自家製のチーズやヨーグルトを作っている。しかし衛生面、保存法、容器などの面で、市場に出すまでには至っていない。地元では乳製品の需要は高く、近年急速に市場が拡大している。市場用製品をつくり生計向上を図るには、製造方法及び衛生管理に関する知識を得るための研修と新たな資機材の設置が必要となっている。

3. 女性の経済的自立の遅れ

農村部の世帯年収を向上させていくためには、女性も技術を身に付けて収入を得られるようにすることが必要である。前回実施した縫製研修は手動ミシンによる基礎的な研修で、まだ制服を作るような水準には達していない。前回参加した研修生から工業用ミシンで質の高い製品を作りたいという声が強く出されている。その人たちに工業用ミシンで質の高い製品を作れるようになってもらい、他の人たちの指導役になってもらうことが事業地全体の水準を上げていくために必要である。今回の調査で、昨年農業研修を受講した人の中で、学んだことを活かして大成功を収めて村全体の刺激となっている人がいることがわかった。このような成功事例を女性にもつくっていくことが重要である。現在、事業地の人は学校の生徒の制服はカトマンズなど他地域で作られたものを購入している。これを地域で作り販売できるようになると、地域の人よりも安い制服を購入できるようになる。

	さらに、ネパールの農村部には「チャウパディ」と呼ばれる、月経期間中、女性が隔離される慣習が未だに残されており、女性の識字率の向上を妨げている。このような慣習をなくし、生活の質を向上させていくためには、衛生的で安い生理用ナプキンの製造と販売が必要である。現在ネパールのナプキンは、インドや中国からの輸入品で、高額であるため普及が進んでいない。農村ではこのナプキンに関するニーズは年々増加している。世帯年収の向上と生活の質の向上、両面からナプキン製造が必要となっている。 4. 復興を促進する将来展望の欠如 4-1 遅れている地域復興 昨年は5村のリーダー30名が、カトマンズで復興会議を行った際、シンドゥパルチョーク郡はツーリズム、国立公園、山岳文化、ラフティング、薬草など貴重な宝があるにもかかわらず、それが活かされていないとの意見が出された。しかし具体的な行動計画までには至っていないため、今回はコミュニティに存在するグループ（青年、女性、農家、教師、酪農、老人、保健衛生、学生、行政他）の代表者が参加してアイデアを持ち寄り、具体的な行動計画を詰める必要がある。このプロセスはプロジェクト終了後の出口戦略としても、彼らを支える新たな政策としても不可欠である。 4-2 モビリゼーション・セミナーと評価セミナー 今回のプロジェクトでは灌漑委員会の設立、酪農製品づくり、女性のナプキン等の新しい事業が計画されているため、関係する村人の理解を得るために、事業開始時にプロジェクトの内容、目的、効果、維持管理、事業に対する住民の期待などについて質疑応答形式で住民と話し合うモビリゼーション・セミナーが新たに必要である。これが欠けると、村人とのコミュニケーションが不足し、進捗状況の把握や正確な評価が出来なくなる。また地域行政との連携や他村へ普及なども同時に行うためにも必要である。 以上のプロジェクトは、連邦・地方開発省の下にあるシンドゥパルチョーク郡の調整委員会から承認を得ている。 ●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性 ゴール1：極度の貧困と飢餓の撲滅。 ゴール5：ジェンダー平等推進と女性の地位向上。 ゴール6：人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理の確保。 ゴール9：インフラを整備し、持続可能な産業を推進する。 ●外務省の国別開発協力方針との関連性 重点項目 3. 貧困削減および生活の質の向上。
(3) 上位目標	農村部でインフラ基盤が整備され、被災した人々が自立的かつ持続的に生計向上に取組み、貧困が削減され生活の質が向上する。

(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	灌漑施設を整備し、各種研修を通じて人材の育成と技術習得を図ることによって、農村部の世帯年収が増加し、生活の質が向上する。
(5) 活動内容	事業地はネパール国 バグマティ県 シンドウパルチョーク郡の2つの自治体、人口合計：25,844 人/世帯合計 6,678 世帯 サンガンチョック自治体 (Sangachowk Gadi Municipality) と ①カダンバス村 (Kadambas Ward No.9) (3,372 人/1,193 世帯) ②スロシルバリ村 (Thulosirubari Ward No.13) (5,987 人/1,331 世帯) ③イルク村 (Irkhu Ward No8) (3,443 人/751 世帯) ④カルキタール村 (Karkitar Ward 10) (2,251 人/545 世帯) サンコシ自治体 (Sunkoshi Rural Municipality) ⑤サンコシ (Sunkoshi Ward 3) (10,791 人/2,858 世帯) <u>1. 生活インフラ整備</u> <u>1-1 ミニ灌漑整備 (貯水槽の建設・修復、配水管敷設)</u> スロシルバリ村において、165,000 リットルの貯水槽 (寸法 10m x 11m x 1.5m) を新たに 1 基建設する。水は直接川から流れ込む形式で貯水槽に集められる。電気の動力設備は設置しない。貯水槽には 2 つの放水口を設置して手動で制御する。水がいっぱいになったら必要に応じてバルブを開き、敷設する配水管 (長さ 82m と 130m の 75mm 0.6kgf のパイプ) と造成する土水路 (60m, 165m, 40m) を通して畑に流される。 さらに地震で使えなくなったまま放置されている貯水槽 1 基 (5m x 5.4m) に補強工事を施して修復する。水は小川に建設するチェックダム (幅 2m) から貯水槽に集める。また放水口に配水管 (長さ 80m の 75mm 0.6kgf) を敷設し、バルブを取り付け放水する。放水は手動で制御する。 配水管は造成する土水路 (105m) につながる。 さらに乾季でも十分に水を満たすため、川からの集水に加えて新規貯水槽に 200 メートルの配水管 (50 mm 0.6kgf) を取り付け、既存の貯水槽に接続させる。 新規貯水槽の建設と配水管敷設による灌漑面積は 480 ロパニ (24.4ha)、既存貯水槽の修復と配水管敷設による灌漑面積は 170 ロパニ (8.7ha)、合計で 650 ロパニ (33.1ha) となる。 貯水槽と配水管はコミュニティが所有し管理する。プロジェクト中に灌漑使用者グループを結成し、関係者以外は勝手に水を使用できないように監視体制を整え、維持管理システムを話し合う。この灌漑が可能になると雨季の稲作のみならず、乾季でも野菜栽培、穀物栽培が可能となり、トマト、カリフラワー、エンドウ豆などの商業用の野菜も栽培できるようになる。これらの野菜は地元市場で高い需要があり、約 150 世帯の収入増加が実現する。 <u>1-2 配管修復のための技術研修 (60 日間、21 人 x 1 回)</u>

この配管技術研修は 18 歳以上 45 歳以下のやる気のある人に応募してもらい、最終的に地域のリーダー達が面接して選んだ 21 人（各村から 4～5 人）が参加して実施される。参加者には交通費、ワーキングランチ、宿泊費が支払われる。研修は参加者の生活への影響を少なくするために繁忙期を避けて実施する。国の技術研修を受けた認定書が授与され、他の配管修復にも携わることができる。訓練は国の認証機関である Council for Technical Education and Vocational Training (CTEVT=技術教育職業訓練審議会*1)と提携して、CTEVT の認定を受けたトレーナーが講師となって、390 時間（2 カ月間）の指導を受ける。研修修了者には国の技術研修を受けた認定書が授与され、個人事業者として他の配管修復にも携わることができる。

2. 生計向上技術研修

2-1 酪農技術研修（5 日間、25 人×2 回）

村人の現金収入を向上させるために、自家製で製造していた農家の伝統的なニーズやヨーグルトの作り方を改善して、酪農家が乳製品を市場販売できるようにする。そのため技術教育職業訓練審議会の専門家から衛生管理、製造方法などの指導を受ける。製造方法では、ヨーグルトの場合、原料乳の受乳、原材料の調合、ろ過、均質化、殺菌冷却、スターター添加、発酵、出荷、充填、混合、冷凍などを学ぶ。食品安全管理システムについての重要性を理解し、食品衛生に対する意識の向上も図る。5カ村合同で5日間の研修を2回行う。各村から5人ずつ参加する。

2-2 酪農乳製品製造用資機材購入

酪農乳製品の製造に必要な小型ミルク冷却タンク、低温殺菌装置、ミルク攪拌機、乳製品製造機、小型冷蔵庫、梱包装置、冷蔵プレート、ミルク缶、洗浄用のソーラーヒーターウォーターの資機材を購入する。乳製品の製造には安定的な電力の供給が必要になる。機材はトレーニングセンターに設置され、電力の確保はできているが、万が一の場合にバックアップ出来るようジェネレーターを購入する。業者から使い方とメンテナンス方法を習得する。酪農家は購入された機械を使って市販用のヨーグルト、チーズ、コア（KHUWA）、アイスクリームなど、付加価値の高い乳製品を作れるようにする。トレーニングセンターの管理委員会が事業主体となり、資機材の管理・メンテナンスも地域政府の了解のもとで管理委員会が責任持つて行う。

2-3 モデル事業視察研修（3 日間、24 人×1 回）

シンドウパルチョークに住む人々は農業収入が主要な源であるが、これまでは伝統的なやり方で、生産性を上げることが難しかった。以下のモデル地域を訪問し、様々な知識や情報を吸収し、体験することによって現場の改善に役立てる。モデル事業地の視察場所は以下とする。新規参加者が 60%、技術をさらに向上させ指導者になるために 40%は昨年の参加者も参加する。各 5 村から 4～5 人が参加する。

① 有機農業技術：ICIMOD Knowledge Park。

② 作物栽培：Nepal Agricultural Research Council。

- ③ パーマカルチャー：*2：HASERA Perma culture learning center
- ④ キャンディー作り：チャングナラヤン村
- ⑤ ミルク製品製造工場

2-4 生理用ナプキン製造研修（3 日間、10 人×1 回）と縫製研修（60 日間、10 人×1 回）

女性の所得創出と生活の質の向上のため、低価格の使い捨て生理用ナプキンの生産方法を訓練する。参加者はモチベーションが高く、事業に関心を持つ女性たちを選ぶ。当年はナプキン製造機と原材料を購入し、販売を近隣の Dolakha 村、Rammechap 村、Rasuwa 村にも広げる。製造グループは、ナプキンの広報、ブランディング、マーケティングの面においても、チャングナラヤン村で経験を積んだ専門家から指導を受ける。この活動を通して、就学中の女子学生の月経時の出席率の向上と、女子隔離の慣習を改善する。製造したナプキンは女性のセルフヘルプグループ（SHG）が事業主体になって 50NPR(47 円)/8 個入りで販売する。通常は 80NPR(75 円)/8 個～120NPR(113 円)/8 個である。このパッケージのための材料として包装用プラスチックを購入する。

縫製研修では、工業用ミシンを 2 台購入し、使えるようになるため、60 日間の商業目的の縫製と裁断研修を実施する。周辺地区には学校が 20 校、2,070 人の子供達が通学しており、公立・私立とも義務付けられている学校の制服を地元で作れるようになるためである。販売は女性のセルフヘルプグループ（SHG）が事業主体になって行う。縫製研修が提供されると、地元の顧客も見つけることができ、地元の人も安価な製品を購入できるようになる。各 5 村から 2 名ずつ参加する。

3. 地域復興計画と協力体制の構築

3-1 住民参加型復興会議（3 日間、30 人×1 回）

今回は事業が一応終了する時期であり、住民として、今後どのようにこの事業を引き継ぎ、発展させるのかを話し合う重要な機会である。住民がシンドウパルチョークの地域復興も含めて、昨年のお話し合いを踏まえて実践計画とそれを支えるフレームワークを作成する。今回の研修にはコミュニティで活動しているグループ（青年、女性、農家、教師、酪農、老人、保健衛生、学生、行政他）の代表者が参加し、講師は佐藤静代が行う。各 5 村から 6 人ずつ参加する。

3-2 モビリゼーション、モニタリングと評価研修

（1 日、25 人×3 回×5 村）

この事業は実施主体である日本人駐在員と現地スタッフが各村を回って行う。村落開発委員会（VDC）、地域グループ、行政関係者、農民、女性、若者など各村から 5 人ずつ、約 25 人の参加を得て、プロジェクトの内容、目的、効果、問題回避方法、維持管理方法、事業に対する住民の期待などについて質疑応答形式で住民と話し合う。また中間段階、最終段階での評価は、事業の裨益者である住民、現地のスタッフ、地方行政官が参加して実施する。内容は何が達成されたのか、達成されなかったのか、目的に沿って事業が遂行されたのか、効果及びインパクトはどうか、妥当性、持続性などをチェックする。住

	民がどんなことを学び、今後どのようにそれを生かしていくのかを明確にして、取組みに活かす。 直接裨益人口:840 人（灌漑地域の農家 570 人、研修受講者 270 人） 間接裨益人口:3,000 人（研修者参加者の家族 750 人、2,000 人の子供の親、ナプキンの利用者 250 人）
6) 期待される成果と成果を測る指標	<u>1. 生活インフラ整備（貯水槽の整備・建設と配水管の敷設）</u> 【成果】 - 生活インフラ整備により、乾季に野菜作物を作ることが出来て、収入が向上する。 【指標】 - 既存の貯水槽の修理と、新たに 1 基の貯水槽を建設する。配水管の修復によって約 150 世帯が乾季の野菜づくりに参加できるようになる。昨年農業研修に参加した参加者の平均世帯年収は 240,000NPR (225,360 円) である。2 毛作にすることで半期分の 120,000NPR (112,680 円) の収入が向上する。 灌漑施設の裨益対象の平均世帯年収を現地で聞き取り調査した結果、平均世帯年収は 168,000NPR (157,752 円) であるため、120,000NPR (112,680 円) を加えた 288,000NPR (270,432 円) に向上する。 【成果】 - 配管研修に参加した受講生が配管修復に携わることができるようになり、収入が向上する。 【指標】 - 配管研修参加者の平均世帯年収を現地で聞き取り調査した結果、配管研修参加者の世帯年収は 108,000NPR (101,412 円) であった。 また、現地で聞き取り調査した結果、配管工の都会での平均年収は約 300,000NPR (281,700 円) であった。事業地の地域性を考慮すると、配管研修参加者の世帯年収は 108,000NPR (101,412 円) から 200,000NPR (187,800 円) に向上する。 確認方法 聞き取り調査、アンケート、モニタリング、農業生産量・販売量調査、収入調査研修報告書 <u>2. 生計向上技術研修（酪農・ナプキン製造・縫製）</u> 2-1. 酪農研修 【成果】 - 酪農技術研修では衛生面に配慮された付加価値の高い乳製品を生産することで、生産性の向上と収益の増加が達成される。 【指標】 - 酪農研修参加者の平均世帯年収を現地で聞き取り調査した結果、現在は 6,000NPR (5,634 円) / 月 × 12 ヶ月 = 72,000NPR (67,608 円) の収

入がある。都市部では乳製品の価格はかなり高くなっているため、地域性を考慮しても2倍の価格設定は十分可能と判断した。このため今期においては現在の収入の半分 ($72,000\text{NPR} \div 2 = 36,000\text{NPR}$) を付加価値の高い乳製品にする。これによって酪農家は $36,000\text{NPR} \times 2 + 36,000\text{NPR} = 108,000\text{NPR}$ の収入にすることができる。

2-2. 生理用ナプキン製造研修

【成果】

- ・ナプキン製造研修では、作ったナプキンを販売して、収益事業にすることができる。ナプキンは就学中の女子学生の月経時の出席率の向上と女子隔離の慣習が改善される。

【指標】

- ・聞き取り調査した結果、ナプキン研修参加者の平均世帯年収は現在 $8,000\text{NPR}$ ($7,512$ 円) / 月 $\times 12$ ヶ月 $= 96,000\text{NPR}$ ($90,144$ 円) の収入がある。チャングナラヤン村では1パック 50NPR で販売し、月に80パック販売していることから、当事業地でも月に1パック $50\text{NPR} \times 80$ パック / 月 $= 4,000\text{NPR}$ の販売を見込んでいる。原材料費 $1,000\text{NPR}$ / 月を差し引いて $3,000\text{NPR}$ ($2,817$ 円) / 月 $\times 12$ ヶ月 $= 36,000\text{NPR}$ ($33,804$ 円) の収入向上が実現する。これにより研修参加者の平均世帯年収は $96,000\text{NPR}$ ($90,144$ 円) $+$ ナプキン収入 $36,000\text{NPR}$ ($33,804$ 円) $= 132,000\text{NPR}$ ($123,948$ 円) に向上する。

2-3. 縫製研修

【成果】

- ・60日間の縫製研修によって、工業用ミシンの使い方を習得し、地元の学生に制服を提供できることで収入向上が実現する。

【指標】

- ・現地で聞き取り調査した結果、縫製研修参加者の平均世帯年収は現在 $10,000\text{NPR}$ ($9,390$ 円) / 月 $\times 12$ ヶ月 $= 120,000\text{NPR}$ ($112,680$ 円) である。昨年10日間の基礎研修修了者が約 $2,000\text{NPR}$ / 月 $\times 12$ ヶ月 $= 24,000\text{NPR}$ の収入を得た人もいたことから、当期では工業用ミシンを使って制服など、単価の高い製品の販売をすることで、 $5,000\text{NPR}$ / 月 $\times 12$ ヶ月 $= 60,000\text{NPR}$ ($56,340$ 円) の収入向上を期待する。縫製研修参加者の平均世帯年収 $120,000\text{NPR}$ ($112,680$ 円) に $60,000\text{NPR}$ ($56,340$ 円) を追加すると、平均世帯年収 $180,000\text{NPR}$ (円) が得られる。

確認方法

聞き取り調査、アンケート、モニタリング、生産量・販売量調査、収入調査研修報告書

3. 地域復興計画と協力体制の構築

(住民参加型復興会議、モビリゼーション・評価研修)

【成果】

- ・住民自ら地域復興計画の策定に参画することで、ビジョンの達成に向けて現状分析がなされ、リーダーの役割とスケジュールが明確になる。

	・モビリゼーションと評価研修では裨益者が事業内容を理解することで、協力体制が高まり、事業が円滑に推進され、良い成果を出すことが出来る。 【指標】 ・住民参加型復興会議が行われ、参加者 30 人のリーダーが集まり、コミュニティが何を望み、どのようにそれを達成するのかについて具体的な方策が出る。 ・モビリゼーションと評価研修では 5 村で計 125 名が参加し、各村で出席しない人にもきちんと情報を伝達できるよう、下限目標として 25 人中 20 人（80％）以上が事業を理解する。 確認方法 ワークショップのドキュメント、聞き取り調査、振り返りや進捗状況の分析
(7) 持続発展性	<u>1. 生活インフラ整備</u> ・貯水タンクと配水管の整備によって、水不足で放置されていた耕作可能な 650 ロパニ（Ropani、約 308ha）の土地で、2 毛作が可能になり、150 世帯以上の農民が食料不足から解放され、貧困からも脱却できる。 ・配管研修の修了生がメンテナンスも担当できるようになる。メンテナンス資材等の資金も管理委員会が関係者の収入向上分から確保することで施設の維持が確保できる。 <u>2. 生計向上技術研修</u> ・乳製品など付加価値の高い製品の割合を高めることで現金収入が増え、牛の頭数を増やしていくこともできる。資機材の使用料などの形でメンテナンス費用を確保し設備を維持していくことを検討している。さらに貧困ゆえに村を去って海外労働者になる道から村に残って開発・復興に携わることができる。 ・ナプキン製造により、タブー視されていた女性の生理問題や家庭内暴力など、女性蔑視を減少させることができる。工業用ミシンで、周辺の学校の学生のための制服作りをすること出来るようになる。女性たちがつくったものを子供達が使用することで、双方に希望と誇りが生まれる。さらに女性が自立のための事業を立ち上げ社会貢献が可能になる。 ・今回の研修に参加した女性が技術をさらに高めることで指導者育成ができる。 <u>3. 地域復興計画と協力体制の構築</u> ・5 村のリーダーが集まって、地域社会の問題や復興について話し合い、プロジェクト終了後も住民の手で問題解決ができるようになる。 ・モビリゼーションと評価研修には住民が直接参加して今後の展望を話し合い、事業の完成と発展のために一致団結する機会が作られる。

	・地域行政機関との連携基盤を確立し、今後地域で自立的に復興と発展に向けた活動ができるようになる。 3年後の成果確認については、全体の運営管理を統括するトレーニングセンターの管理委員ないし諮問委員へのインタビューによって下記の達成状況を確認する。 ・ミニ灌漑設備によって成果目標に掲げた生計向上が達成され、運営・メンテナンスもしっかり行われていること。 ・酪農に関しては成果目標に掲げた生計向上が達成され、牛の頭数（バッファローを含む）が増加していること。 ・ナプキン研修に関しては成果目標に掲げた生計向上が達成され、女子学生の出席率が向上していること。 ・縫製研修では、成果目標に掲げられた生計向上が達成され、現地で生産された制服をきて学校に通う子供が増えていること。
--	--

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)